



## 旅行的行事を終え、大きく成長した1学期。そして真価の2学期へ！

今日で1学期が終了します。そんな1学期のビッグイベント！“旅行的行事”大きな成果をあげて無事に終了しました。各学年生徒の事前の準備や事後の取組について、また、旅行中の様子などについて、各学年教諭からの報告と生徒の旅行的行事の振り返り、2学期への意気込みをお伝えします。



### 1学年 校外学習

5月30日(金) 札幌市内自主研修、青少年科学館

「校外学習を終えて」

1 学年教諭

今年度の校外学習は、「班単位での自主的な見学・学習を通して、ふるさと札幌の歴史、文化、産業などに対する広い知見と情操を養うとともに、現地での様々な活動を通して、公衆道徳や社会的マナーを養う。」というねらいのもと、午前には札幌市内で班ごとに自主研修を行い、お昼は青少年科学館に集合し、お弁当を食べ、午後は班ごとに青少年科学館を見学する活動を行いました。当日の活動だけでなく、4月末からの学校での総合の時間に事前学習、終わってから1か月の事後学習の取り組みも行いました。

事前学習では班単位で見学したい施設を決め、クロムブックを活用し、行き方や交通費、見どころなどを調べ、自分たちが何のためにその施設に行くのかを班員と確認しました。さらに、各係会も開き、係活動として責任をもって自分たちの役割を果たしていました。例えば生活係は時間を意識しようキャンペーンを行い、普段の生活から2分前着席や給食の準備を素早く行うことができるようになりました。さらに前日の点呼練習で、なかなか素早い行動ができずに全員で行動することの難しさを感じた生徒たちでしたが、「時間を意識して行動すること」「話をしっかり聞くこと」を再確認して当日を迎えました。午前中の班別札幌市内自主研修では、集合時間を少しオーバーし、さっそく1本後ろの地下鉄に乗る班があったりと、予定通りにいかない部分もありましたが、それぞれの研修場所でも有意義な体験や学習を行っていました。そして12時40分には全班が遅れずに、青少年科学館に集合することができました。課題を乗り越え絆を深めた仲間とテーブルを囲み、会話しながら持参したお弁当を食べる生徒たちの顔には、とびきりの笑顔が溢れていました。午後の青少年科学館では、午前の取組に続いて、班でまとまって見学する様子が見られました。集団としての意識や思いやりの気持ちをもって行動できるようになっていました。全員がたくさん学習し、一日を終えることができました。その後、クロムブックを使って、自分たちが学んできたことを発表会に向けてまとめていました。学級ごとの発表会をやった後にクラスの代表班が学年全体の発表会で発表しました。

校外学習の活動全体を通して、「今、自分は何をすべきか」を考え、班員で声を掛け合いながら協力する姿や、仕事に責任をもって取り組む姿が見られたことが一番の収穫でした。

今年度、生徒が決めた学年目標は「一番星」です。この学年目標は「一番星のように、一人一人が輝く笑顔を振りまけるように！」という願いが込められていて、この3か月の姿を見てるとまさに一人一人が頑張っています。今後も、校外学習の活動を十分にいかしてほしいと思います。

最後になりましたが、校外学習の活動に対する、保護者の皆様の御理解と御協力が心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 「短い時間の中で」

生徒作文

最近、一日が、一週間が、とても短く感じる。それは幸せの証だと思っただけけれど、どこかさびしい。だが、考えてみれば、その短いと思う一日に、どれほどの思い出が詰まっているのだろうか。もちろん内容や量は一人ひとり違うと思うが、5月30日の校外学習もまた、私にとって、思い出せば「クスツ」と笑える短い最高の一日だった。

8時50分。班のみんなと合流。ワクワクの校外学習スタート！最初に向かうのは「交通資料館」。第三希望ではあったが…ここで、あることに気づいた。旅行や、出かけるとき、「どこに行くか」ではなく、「どんな気持ちで行くか」が大切なのだ、ということに。二つ目の研修場所、「豊平館」について。驚くほどきれいで、「来てよかった…」と思えた。やはりこの日も、とても短かったが、とても楽しかった。また行きたい！と思えるほどに。新たな課題や発見もできた。校外学習でたくさん「力」を得た。その「力」を短い、短い毎日の中で、使っていきたい。

校外学習、本っ当に最高でした。



### 2学年 宿泊学習

5月21日(土) コミュニケーションプログラム  
5月22日(日) 旭川市内自主研修

「共鳴の心で1歩ずつ成長を」

2 学年教諭

子どもたちが楽しみにしていた宿泊学習が無事に終了しました。1日目は天候に恵まれ2日目は電にも見舞われ大きなトラブルもなく、学年全体で多くの学びと経験を積むことができました。

「共鳴」のテーマのもと、中堅学年として、仲間と協力し合い、何事にも粘り強く努力していくことを通じて、周囲に対して素直に感謝でき、自分や仲間を大切にできる生徒の育成を目指しています。宿泊学習のなかでも、班での活動や集団行動を通じて、子どもたちは自然と「共鳴」の姿を見せてくれました。また、学年スローガン「ピラミッド」には、仲間と一緒に土台を築き、みんなで高みを目指すという思いが込められています。宿泊学習中もそうですが、事前事後の活動においても、友達とのコミュニケーションを大切にしながら行動する姿が見られ、学年スローガンを実感する場面が多くありました。

今回の宿泊学習の大きな柱のひとつが、「旭川市内自主研修」です。事前に立てた計画に沿って、グループごとに市内を巡りました。グループ内で目的地を決め、時刻表や地図を使って移動手段を調べ、昼食場所まで自分たちで選びました。子どもたちにとっては、初めての“自分たちの力だけで行動する札幌市外での学びの旅”。事前の話合いでは、全員が納得するまで

意見を出し合い、役割分担や時間配分も真剣に考えていました。当日は、思い通りにいかない場面もありましたが、仲間と相談しながら臨機応変に対応する姿は、普段の学校生活では見られないほど頼もしいものでした。

「計画通りに回れた!」「人に道を聞けた!」「時間に間に合ってホッとした」など、達成感に満ちた表情で戻ってきた子どもたち。その中には、地元の方とのちょっとした会話や、お店の人とのやり取りなど、リアルな社会とのふれあいを通じて、コミュニケーションの大切さや礼儀、公共マナーを自然と学んでいたことも感じ取れました。

旭川自主研修を通して、子どもたちは「自分たちで考えて行動する力」「仲間と協力する力」「予測外の出来事に対応する力」を身につけ、確かな成長の一步を踏み出しました。

これからも「共鳴」の心を大切に、ピラミッドのように一人一人がしっかりと土台となり、仲間とともに高く積み上げていけるような学年を目指してまいります。

最後になりましたが、宿泊学習の活動に対する、保護者の皆様の御理解と御協力が心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 「1学期で学んだことを2学期へ」

生徒作文

一学期の大きな行事の一つに、宿泊学習がありました。私たちは「共鳴」という学年目標のもと、「ピラミッド」というスローガンを掲げて、仲間と支え合いながら様々な活動に取り組みました。

中でも旭川での自主研修や班での活動を通して、仲間と協力すること、自分で考えて行動することの大切さを学びました。

僕はこの1学期の大きな反省点だと思うことは「メリハリをつけること」や「物事を自分ごととして捉えること」がうまくできなかったと感じています。特に「自分の行動がまわりの人にどんな影響を与えるのかを、深く考えずに過ごしていること」が僕たちはできていないと感じました。廊下での過ごし方について何度も注意されていたのに、それをすぐに改めることができなかつたのも、自分の行動が周りにどんな影響を与えているかを考えられていなかった証拠です。僕自身も「自分さえよければいい」という気持ちがあったことを反省しています。もっと自分事として考えるべきでした。なので、一人ひとりが自分の役割に責任をもち、まわりを見て、主体的に行動していけば、さらなる成長につながると思います。

二学期は、陸上競技大会や合唱発表会など、一人ひとりの意識が結果につながる行事がたくさんあります。一人ひとりが「これは自分のことなんだ」と思って動ければ、きっと学級、学年全体の雰囲気も変わっていくはずです。周りに流されず、場面に応じて「やるときはやる」というメリハリを大切に、自分の行動がまわりにどんな影響を与えているかをしっかりと考えて行動していきたい。



## 3学年「修学旅行」

- 5月27日(土) なまはげ体験(真山神社祈禱、太鼓ライブ)  
男鹿観光ホテル(宿泊)
- 5月28日(日) 東北文化体験活動(男鹿かべかけ体験、きりたんぼ作り)  
青森ワイナリーホテル(宿泊)
- 5月29日(月) 国宝文化財「康楽館」での観劇、舞台裏見学

### 「修学旅行を終えて」

3学年教諭

「それぞれの地域の文化について、現地の方々と交流しながら体験し学ぶ」「非日常の中で、学生のうちにしかできない経験を仲間と共有する」という2つのテーマのもと、3か年計画で行ってきた旅的行事の集大成である修学旅行では、様々な場面で最高学年としての成長が見られる活動となりました。

初日の朝は、今回のメイン活動であるなまはげ体験を男鹿で行う関係上、始発の電車に乗らなければいけなく、生徒学校集合が5時というとてもタイトな日程でのスタートでした。若干名の遅刻は覚悟していましたが、誰一人遅刻することなく、定刻で出発することができました。余裕をもって行動することの大切さを、この3年間で学んでくれたのだと思います。また、朝早いにもかかわらず、快く送り出してくれた保護者の皆様にも大変感謝しております。

道中の電車やバスの中、ホテルでの自由時間では、盛りだくさんの活動で疲れているにも関わらず、それを感じさせない盛り上がりを見せていました。「普段も食べているアイスやただのUNOなのに、修学旅行で友達と一緒に食べたり遊んだりすると、何倍もおいしく、楽しく感じる。」という生徒の言葉を聞いて、まさにこの瞬間、学生のうちにしかできない経験を仲間と共有しているのだと嬉しく感じました。男鹿観光ホテルの方が「20歳になったときにまた仲間と来てほしい。」という願いを込めて、「修学旅行生限定、20歳半額チケット」をプレゼントしてくださいました。是非、今回の仲間との大切な思い出を懐かしく語り合いながら、20歳になったときに男鹿観光ホテルまで足を運んでみてください。

なまはげ体験、男鹿壁掛け制作、きりたんぼ作り、康楽館での観劇と今回は体験活動が多く予定されていました。現地の方々と触れ合う機会が多く、生徒は東北の方の温かさを肌で感じたのではないかと思います。東日本大震災から立ち直った東北の方々だからこそ、人との繋がりや助け合いを、誰よりも大切にしているのだと思います。普段の旅行ではなかなか訪れない東北で、普通に生活していたら出会うことのなかった人々に、様々なことを学び、大切な時間を共有する。家族旅行では得られない、修学旅行だからこそ得られた貴重な体験だったと思います。この体験が、生徒のこれからの人生において人と人との繋がりやの基盤になってくれると嬉しいです。

多くのことを学び、たくさんの人々の温かさに触れ、仲間との絆を深めた修学旅行。「修学旅行楽しかった」だけで終わるのではなく、この経験をこれから先の進路=人生にいかして、より高い目標に向かって羽ばたいてください。「FLY HIGH」3学年教員一同、これらも応援していきます。

最後になりましたが、修学旅行の活動に対する、保護者の皆様の御理解と御協力が心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 修学旅行の振り返りと今後に向けて」

生徒作文

中学校生活最大のイベントである修学旅行では、学年全体で多くの成長が見られました。その一つとして挙げられるのは、新しいクラスの仲間とお互いに理解し合おうとしたことです。普段あまり関わりのない人とも交流したり、きりたんぼ作りなどの体験学習では互いにアドバイスをしたりと、お互いを理解し、仲良くなろうとする場面が多く見られました。

また、自分の意見をはっきりと述べられる人が増えたことも成長の一つだと思います。これは意見を述べられる雰囲気づくりができるようになった周りの成長でもあると言えます。学級ミーティングでは、他者の意見に対して「あー確かに」と言いながら適宜メモを取ったり、自分と異なる意見が出て「それってこういうこと?」など相手の目線に立ってその意見の意味を考えたりする人が多く見られ、たくさんの見方から意見を得ることができました。

一方、大勢で一人の話を聞く場面での姿勢や目線、反応などには課題があります。これは中学校3年生として、できるようにしておくべきことであると思います。ですから、授業態度や人の話の聞き方をもう一度見直し、今のうちに習慣づけたいと思います。

これらの反省を踏まえて、2学期以降はまず「もう授業終わったの?」と言えるぐらい授業に集中し、受験へと駆けだしたいと思います。そして、互いを尊重し合う気持ちを大切に、支え合い、より良いクラス、学年をつくっていきたくです。

